

A. 主な動き

1. 内政

▼大統領再選挙に向けた動き

- ・28日、モルドバ議会は、大統領再選挙の実施日を2012年1月15日に決定。
- ・29日、選挙実施特別委員会は、大統領最選挙立候補の受付を12月29日から1月12日まで行うと発表。1月6日、同委員会は、同日現在立候補の届出は提出されていないと発表。(12日までに立候補者の届出がない場合は、再選挙は成立せず、議会は30日以内に再選挙の日程を決定することになるが、法律には再選挙の回数についての規定はない。)

▼各勢力の動き

- ・28日、ルプ大統領代行兼議会議長(民主党党首)は、同選挙に再出馬しない意向を表明、与党連合AEIを保持しつつ、大統領選への新たな道筋を開くための決定であると説明。これに対し、ヴォローニン共産党党首は、中立的な大統領候補追求のための対話に応じる用意がある旨表明。
- ・30日、ルプ大統領代行兼議会議長は、党外からの候補者模索につき、懐疑的であるとし、共産党やドングループ内には期限前選挙の実施に前向きな意見がある旨発言。
- ・5日、ヴォローニン代表共産党党首は、大統領選出につき、AEIは未だに共産党との交渉の席についていないと批判。

▼世論調査

[IMAS]

- ・近日中に議会選挙が実施された場合の政党支持率
共産党:34.1%、自由民主党:16.8%、民主党:11.9%、自由党:6.6%等(投票の意思なし:4.7%、態度保留:22.5%)
- ・調査は12月10日から23日にかけて1109名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼財政

- ・27日、議会は、2012年度国家予算を採択。歳入は213億6,000万レイ(約1,391億円)、歳出は221億6,000万レイ(約1,443億円)。

▼その他

- ・28日、経済省は、2011年、モルドバの貧困レベルが低下した旨発表。これに対し、チリアク貿易連合副会長は、モルドバはデータの上では豊かになったが、76万人以上が最低生活水準以下の賃金又は年金で暮らしており、少数の豊かな者と多くの貧困者がいる貧困国である旨発言。
- ・31日、レドゥカン地方発展・建設相は、2011年は地域発展プロジェクトが実施された年である、26あるプロジェクトの

うち21のプロジェクトに対して国家地域発展基金から資金が提供された旨発言。

- ・4日、ペトロイ・モルドバ商工会展示部長は、1月31日～2月4日の日程で開催される「メイドインモルドバ展」(政府とモルドバ商工会の共催)に200の企業が参加申込を行った旨発言。

3. 外政

- ・23日、ルチンスキー元大統領は、チェコを訪問、18日に死去したハヴェル前チェコ大統領の葬儀に参列(フィラト首相、レアンカ外相は、22日、在モルドバ・チェコ大使館を弔問済)。
- ・27日、レアンカ外務・欧州統合相は、2012年の外交政策上の優先事項として、日本を含む4カ国との関係拡大につき発言。この中で、日本からは財政的・技術的支援を受けていながら、モルドバはさほど対日関係に積極的ではなかったため、2012年は温暖化ガス消費量削減の経験を共有するため、代表団を日本へ派遣したいとの意向を表明。

4. 沿ドニエストル

▼「大統領」選挙候補者の動き

- ・26日、カミンスキー「最高会議議長」は、25日の「大統領」選挙決選投票における敗北を宣言。
- ・28日、スミルノフ前「大統領」は、16日の「大統領」選挙一次投票における敗北宣言を発表、新「大統領」への期待を表明。

▼「大統領」決選投票(25日)結果に対する各方面の反応

- ・27日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、新「大統領」選出に関し、モルドバは選挙自体を認めないものの、誰とであれ建設的政治対話を行う用意があるとし、シェフチューク新「大統領」のドニエストル兩岸の交通の自由化に関する声明を歓迎。同日、ルプ大統領代行兼議会議長は、新指導者の登場を歓迎する旨表明。

- ・27日、露外務省は、選挙は適正に実施されたとし、シェフチューク新「大統領」は今後その政治手腕が試されることになるが、ロシアは今後も沿ドニエストルとの親密な関係を継続する旨の声明を発表。

- ・29日、グリシチェンコ・ウクライナ外相は、選挙結果を歓迎するとする一方、沿ドニエストル地域に居住するウクライナ人の権利が新指導部により保護されるかにつき引き続き注視する旨発言。

▼シェフチューク新「大統領」の動き

- ・26日、シェフチューク新「大統領」は、前「政権」の方針を引

き継ぐことを表明し、「組閣」については白紙であるとしつつ、就任式から14日以内に「首相」を指名すると発表。

・30日、シェフチューク新「大統領」の就任式が実施。新「大統領」は、ロシアとの友好関係継続を強調するとともに、隣国モルドバ、ウクライナとの互恵関係構築にも傾注し、地域の安定を目指すことを表明。同就任式に出席したグバレフ露沿ドニエストル問題担当特使は、ラヴロフ露外相からの祝辞を代読。

・30日、シェフチューク「大統領」は、前「閣僚」の解任に関する大統領令を発令、「組閣」を開始。

・3日、シェフチューク「大統領」は、露モスクワを訪問、イワノフ露大統領府長官と会談。イワノフ長官は、最初の訪問先にロシアを選んだことに謝意を表明、ロシアは沿ドニエストル支援を継続する旨約束。これに対し、シェフチューク新「大統領」は、支援に対する感謝、今後の関係強化を表明。

▼ 露平和維持部隊駐留地における発砲事件

・1日、ドニエストル河岸の平和維持部隊が駐留する第9検問所で、停止指示に従わず通過した車両に対し、露平和維持部隊が発砲、運転手のモルドバ人男性(沿ドニエストル住民)が死亡。

・2日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、本件に関し、発砲するほどの脅威はなかった旨述べ、改めてモルドバ政府として平和維持軍を非武装国際監視団へ変換する必要性を強調。2月に予定されている「5 + 2」者会談においてもこの事件は議題になるだろうとし、地域の非武装化の検討を要請する旨発言。また、3日、フィラト首相は、本件は根拠なき殺人事件であり、真実は捜査が解明するとした一方、本件によりロシアとの関係を悪化させないよう閣僚に指示。

・4日、ウクライナ外務省は、武装解除に向けた交渉の用意があると発表。これに対し、沿ドニエストル「外務省」は、結論を急ぐべきではないとのコメントを発表し、露外務省も慎重な態度を表明。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)